

## 政策科学研究所 10 周年記念講演開催のお知らせ

政策科学研究所設立から本年度で 10 周年を迎えます。設立当初から「コミュニティ」を研究のキーワードとして被災地や海外のコミュニティに関する研究を中心に活動を重ねてまいりました。10 周年を迎えるこの記念の年に、海外から二人の専門家をお迎えして講演会を行いますのでお知らせいたします。ぜひとも万障お繰り合わせの上、ご参加下さいますようお願い申し上げます。

日程： 2018 年 7 月 6 日（金）13:30～17:30

会場： 愛知学院大学 12 号館 G207/208 教室

講演テーマ：「社会の中の多様性・分断・対話：教育と政治の視点からみるコミュニティの声と課題」

講演者： Dr. Axel Harneit-Sievers / Heinrich Böll Stiftung ミャンマーオフィス所長

Dr. Catherine Raymond / Northern Illinois University 教授/ Center for Burma Studies 所長

討論者： Patrick Meehan / SOAS University of London 研究員

山旗張星允 / 愛知学院大学教授

コーディネーター兼通訳：竹田真紀子/ 愛知学院大学講師・山内頼人 / 愛知学院大学研究員

対象者： 教職員・一般・学生

講演内容： 現在様々な国で社会の分断が進み多様性に対する寛容さの促進が進む一方で、排除に向けた政策や思想を支持する動向が目立つようになってきている。本講演では、ヨーロッパ、アジア、アフリカ、アメリカの事例から、社会分断によって取り残され、声をあげることができないコミュニティの声を特に教育と政治という視点からお話しいたします。

講演者略歴：

<p><b>Dr. Axel Harneit-Sievers</b></p> 	<p>講演タイトル：Community Values, Identity and Empowerment: Cases from Europe, Africa and Southeast Asia 「コミュニティの価値・アイデンティティ・エンパワーメント：ヨーロッパ、アフリカ、東南アジアの事例から」</p> <p>1990 年 Hannover 大学（ドイツ）博士号取得後、ベルリンにある Center for Modern Oriental Studies やハンブルグにある Institute of African Affairs 等の研究所や大学で勤務し、2002 年よりドイツの Heinrich Böll Stiftung 財団のナイジェリアオフィス所長、インドオフィス所長を経て、2018 年より現職。            専門領域：アフリカ研究、歴史学者・政治学者            主な研究テーマ：政治分析、開発、資源政策、ジェンダー問題、市民社会団体と各国との政治対話</p>
<p><b>Dr. Catherine Raymond</b></p> 	<p>講演タイトル：「Voices from Marginalized Communities and their Invaluable Existence: Lessons from Southeast Asia and US（社会から取り残されたコミュニティの声、そのかけがえのない存在：東南アジアとアメリカからの教訓）」</p> <p>University of Paris III, Sorbonne Nouvelle で博士号取得。現在は Northern Illinois University 教授およびビルマ研究所の所長。国際ビルマ学会の創設者であり会長も務める。その研究活動は高く評価され、ミャンマーの文化財返還に大きく貢献すると共に、軍事政権によって禁止されていたアメリカとの大学の交流正常化、教育制度の再建にも尽力している。またアメリカに定住したミャンマー難民の支援にもあたっている。            専門領域：美術、考古学、ミャンマー研究、東南アジアの歴史学者            主な研究テーマ：ミャンマーの芸術史、仏教芸術</p>